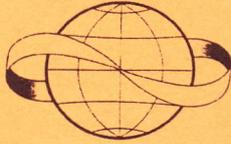


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第20号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
 Tel&Fax 042 - 395 - 9788

海外輸出頼りになるのか

我が国のリサイクル!

産業や経済の構造変革によって、鉄屑スクラップや古紙そして古繊維など、再資源化物の海外輸出が急増している。鉄スクラップは、電炉メーカー各社の減産強化から国内消費が落ち込み、逆に企業の工場閉鎖などでスクラップの発生が増え、慢性的な供給過剰状態となってきた。

例えば、日産自動車村山工場の解体が今夏始まるが、十万吨からの鉄屑が排出される。このようなスクラップの発生増が首都圏だけでも百万トンも見込まれていて、価格も戦後最低に下落した。余剰分は、中国はじめアジア諸国に輸出しているが、業界としても本格的な輸出事業の確立を目論んでいる。

古紙市況も、国内製紙各社が生産調整を理由に納入制限し、一斉に価格下げに踏み切った。加えて全国的な行政回収の普及によって、古紙や古繊維の回収が順調に増えて、今年の古紙の余剰分は七十〜百万トンに達するのではと懸念されている。

古紙業界としても、この余剰対策を輸出によって乗り切るべく、中国などアジアの新たな需要先の

確保に努めている。

昨年の古紙輸出量は、三十七万二千トンだったが、本年一〜五月でほぼ三十四万トンに達した。国内価格も史上最安値になってきたが、それを下回って出血輸出を余儀なくされているのが苦しい。

紙の場合は、国内での生産と消費そして古紙の国内利用率が九十五%以上で、典型的な内需産業として国内需給が重視されてきた。

従って、日本の古紙輸出は余剰時だけの一時避難だとして相手国にも買い叩かれてきたが、今後さらに回収率の伸びが見込まれるなど、最低でも百万トン程度の恒常的なそして採算の取れる輸出の道を確立して行く時が来たようだ。

今春の古繊維の大余剰化状況は、前号で訴えてきたが、古繊維の中の海外向け中古衣料は、すでに十数年前から業界の輸出事業として業績を上げている。昨年は八万二千トンの中古衣料を輸出して来たが、今年は急激な発生増で海外のバイヤーから叩かれ、価格も崩れてピンチに陥った。関東地区で回収される古繊維の約半分が中古衣料に頼っているため、やはり古繊維リサイクルの受け皿も海外に拡大しなければ解決困難である。家電製品はじめ日本を支えてき

た産業の生産部門が国外に移るなど、国内空洞化がさらに顕現している。例えばテレビの九八%以上が海外生産だ。食料も七十%を海外に依存し、自給率が三十%に低下している。当然入れ物となる段ボール箱も海外生産地で必要になる。こうして海外で大量生産した物を、この小さな島国で世界第二位の大量消費し、ごみ減量のための各種国内法で強制的にリサイクルするとなれば、回収した再生資源の受け皿が無くなるのは当然の理とも言える。この現象は、「仮そめの資源大国日本」最後のアガキにも思える。

問題は、大量に廃棄された物の再資源化コストや輸出経費の補填を、誰が負担するのか、大量消費大量廃棄のシステムをどのようにして変えて行くのかである。市民や自治体そしてリサイクル業者を交えた国民的な議論を一刻も早く実施して戴きたい。

特に今まで市場メカニズムに任されてきた鉄屑や古紙・古繊維などリサイクルの優等生ほど回収コストの負担者が不明確になり打撃をうけている。このままでは、ごみゼロ社会に変わる前に、資源回収業者がゼロ化してしまう。

(T・K)

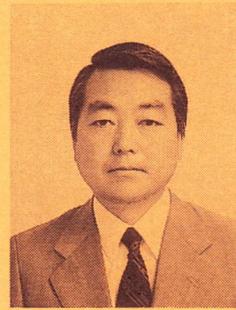
直言拝聴

最近の古紙流通事情の変化

関東製紙原料直納商工組合理事長

栗原紙材株式会社代表取締役社長

栗原正雄



わが国の紙の需要は、これまで、ほぼGDP（国内総生産）の伸びと共に同一歩調を取り伸張してきました。

一九八五年から、一九九五年の一〇年間の国民一人当りの紙の需要は一六七kgから二三九kgに増加しました。一年間の平均に直すと七%の増加率です。直近の五年間の増加は二三九kgから二四九kgとわずか一〇kgに過ぎません。増加率にして一%以下です。紙の需要の伸びは急激に低下して来ています。

一方、古紙の消費量は、この一〇年間で、一五三〇万トンから一八〇五万トンと二七五万トン増加して、利用率も五二%から五七%へと拡大しております。

では古紙の消費量がこんなに増加しているのに、何故、古紙が余剰になるのでしょうか。

それは、最近、古紙の回収量が消費量を上回る増加傾向を示しているからです。

先ず最近の古紙の回収率を検証してみましよう。

一九八一年から一九九六年までの一四年間の回収率は、五十一%か五〇%で推移し、殆ど変化はありません。ただ、回収量自体は、紙の需要がGDPと比例して伸びて

いたので増加しています。

この傾向が一九九七年から突然上昇に向かいます。一九九六年から二年間は、古紙の大余剰期でありました。したがって、古紙価格の暴落により古紙の回収が減退してごみの発生が増加する事を恐れた多くの自治体が、本格的に、古紙回収に関与し始めた時期と一致しています。

一九九七年から二〇〇〇年までは、毎年二%近く回収率がアップしました。一九九六年まで横ばいだった回収率が毎年二%近く上昇して昨年は、五八%にまで高まりました。量に換算しますと、前年対比で、一二七万トンの回収増量となりました。最近五年間の回収量の増加は、一九九六年の一五七六万トンから二〇〇〇年の一八三三万トンへと二五七万トン回収増量となっております。

一方、古紙の消費のほうは、一九九六年の一五九一万トンから二〇〇〇年の一七九一万トンへの消費となり、二〇〇万トンの増加です。五年間を通じて五七万トンの回収オーバーです。このうち、昨年一年間だけで四二万トンの回収オーバーになっています。

一九九七年の古紙大余剰の解消策として、国は、製紙メーカーに

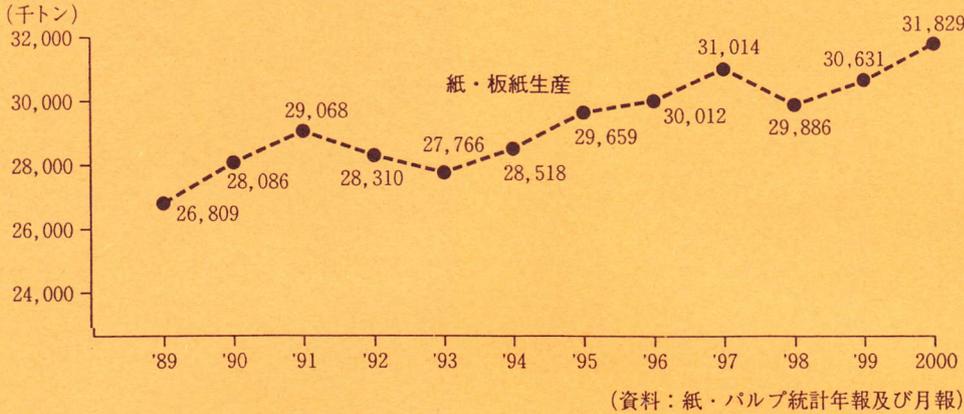
脱墨設備の新増設を働き掛け、製紙メーカーは、それに応じて、三年間で一二五万トンのDIP（脱墨パルプ）設備の新設を計画しました。

それによって、昨年前半まで新規設備が次々に稼動しはじめました。その結果、大幅な古紙回収分を吸収してくれました。

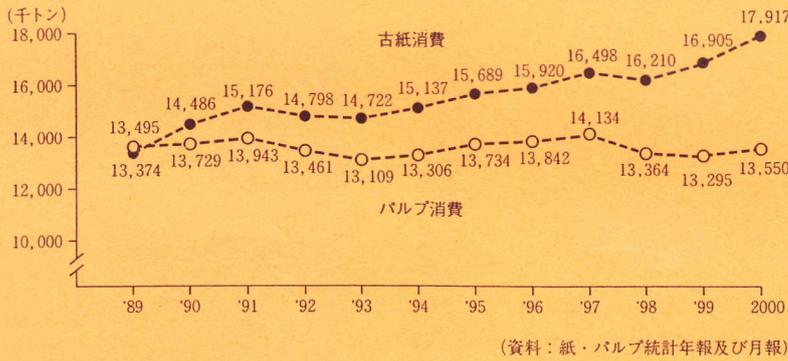
今年はどうでしょうか。殆ど、古紙消費設備の新設はありません。一方、回収量はここ四―五年の傾向のまま推移しています。

今年の四月の全国の古紙の回収量は、一六二万トンとなり、前年同月対比で六%の増量となっております。関東直納商組の今年の需給予測では、最悪の場合、九二万トンの余剰と試算しました。これは、回収量が前年対比六%アップで、消費量が一%アップと仮定した場合の数値です。これまでのところ、回収量の増加は予想どおりに推移しています。関東直納商組の組合員の多くの方は、早めの対応を実施しています。四月、五月二ヶ月間の余剰対策としての輸出货量は、二〇万トンに達しました。この内六割以上は関東地区からの輸出です。国内価格の半値以下で輸出しているのです、その負担は益々大きくなり、先行きが心配です。

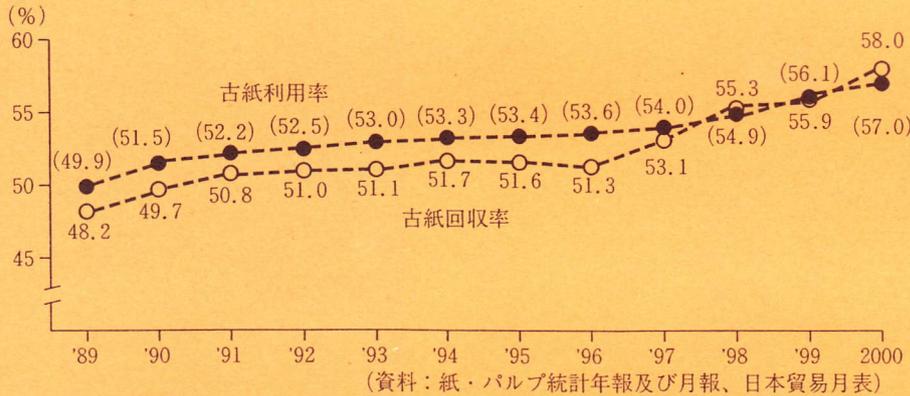
紙・板紙の生産推移



古紙・パルプの消費推移



古紙回収率・利用率の推移



しかし、この出血輸出の継続が、将来、大きな力となって返ってくる可能性も出てきました。

一九九七年以来毎年三〇万トン以上の古紙を輸出してきましたが、この間、日本の古紙の品質の良さやデリバリーの確実性などが評価

され、東南アジア各国も日本の古紙を見直して、主な輸入先のひとつとして認識し始めています。日本の古紙も国際化の仲間入りを果たしたように思います。これからは、余剰時だけの輸出ではなく、需要先のひとつとして、慎重な対

応が求められるものと思います。今後、アジア各国で、紙の需要が高まれば、その原料供給国として日本の古紙が大事にされることも夢ではないと思います。今後関連業界が、力を合わせて今の苦難を乗り越えていきましょう。

地元・五市で回収された雑古紙100%使用！
 漂白の際に化学薬品は一切使わず、地球とお尻にとっても優しい！
 100mシングル巻きでたっぷり使えてオトク！

トイレットペーパー 「ブーメラン」

1ケース（100ロール入り）、4,000円（配達料・消費税込）
 東村山市・西東京市の公共施設・小中学校などで本格採用中！
 電話・FAX・Eメールでのご注文お待ちしております。

〔注文先〕東多摩再資源化事業協同組合
 電話・FAX：042-395-9788・Eメール：ri3196@oak.ocn.ne.jp



第9回TAMA
とことん討論会

開催案内

開催日：九月二二日(土)・二三日(日)

場所：東京・日野市民会館及び日野市役所

内容：開催地日野市のゴミ問題とリサイクルへの取り組み・現在の資源リサイクルの問題点・生ごみリサイクルなどについて、全体会と分科会で討論する。

(日野市神明一―二―一―一)
〔東京・多摩リサイクル市民連邦副代表・小石恵子さんの談話〕

日野市はダストボックスを廃止し、家庭ごみの有料化を実施した結果、五〇%のごみ減量を達成しました。

「ごみ改革」の一年を振り返って、市長や市民の生の声を聞くチャンスです。

「ごみゼロ社会」を目指し、七つの分科会でとことん話し合う場もあります。

ご参加をお待ちしています。

(問合せ先)
東京・多摩リサイクル市民連邦事務局

TEL〇四二―三七一―〇五三〇
FAX〇四二―三五七―四五五四

★リサイクル関係行事案内★

●第6回東京とことん討論会

開催日：八月一七日(金)・一八日(土)

場所：東京・台東区民会館
(台東区花川戸二―六―五)

内容：東京二三区の問題とリサイクルへの取り組み・現在のリサイクルの問題点・家電リサイクル法・グリーン購入制度などについて、全体会と分科会で討論する。

(問合せ先)
東京二三区とことん討論会実行委員会事務局

TEL〇三―三三三〇―一〇〇三

●第9回生ごみリサイクル交流会

開催日：八月二七日(月)

場所：早稲田大学国際会議場
(東京・新宿区)

内容：全国各地の生ごみリサイクル(堆肥化処理)への取り組みについて、全体会と分科会で様々な角度から討論する。

(問合せ先)

第9回生ごみリサイクル交流会二〇〇一実行委員会

TEL〇三―五四一〇―三七三五
FAX〇三―五四一〇―五二六七

●小平市リサイクルフェスティバル

開催日：九月八日(土) 午前一〇時～午後二時

場所：小平市福祉会館前広場
内容：フリーマーケット、環境・リサイクル関係展示など。

(問合せ先)
小平市環境部リサイクル推進課

TEL〇四二―三四一―一二二一

●東村山市リサイクルフェア
開催日：十月二一日(日)
午前一〇時～午後三時
※雨天の場合は二八日(日)に順延

場所：東村山市役所臨時駐車場
内容：フリーマーケット、環境・リサイクル関係展示など。

(問合せ先)
東村山市環境部ごみ減量推進課

TEL〇四二―三九三―五一一一

●西東京リサイクル市
開催日：毎月第一日曜日午前九時～午後〇時(二〇〇一年一二月まで毎月開催)

場所：西東京市役所田無庁舎中庭
内容：フリーマーケットなど。

(問合せ先)

西東京市環境防災部ごみ減量推進課

TEL〇四二四―六四―一三二一

『持続可能な社会を目指す

～大量リサイクルでは資源循環できない』

環境ジャーナリスト・古紙問題市民行動ネットワーク代表 中村正子著

定価：1,700円 つげ書房新社

ゴミ問題・現状のリサイクル関連法、大量リサイクルの抱える問題にメスを入れ、大量生産・大量消費社会から持続可能な社会への道しるべを示した本です。資料やグラフが豊富でゴミ問題、資源問題を勉強する際のテキストとしてだけでなく、会議、打ち合わせの際のデータベースとしても最適です。

(10月5日(金)午後6時30分より、出版会を兼ねた交流会を大田区立生活センターで開催する予定です。皆様の多数のご参加を歓迎致します。)

持続可能な
大量リサイクルでは資源循環できない
社会をめざす

中村正子 著



集団回収を継続させよう！

各市に業者支援の為の

要望書を提出

大切な民間リサイクルシステムである集団回収が、またも、非常に困難な状況に追い込まれてしま

す。昨年後半から古紙価格が徐々に下がり始め、今年に入って更に続落し、価格がほとんどない程（新聞三円、雑誌〇円、段ボール一円、古布〇円）になっていきます。

これは製紙メーカーの生産調整による余剰化と一方的な値下げによるもので、業界としてもメーカーに対し、速やかな値下げの撤回と価格の回復を要求しています。

このままコスト割れの状況が続きますと、集団回収の継続に支障をきたしかねません。

組合としても、古紙全品目に業者助成金最低四円を要望し、古布についても四円の助成金をつけていただくように、各市に要望書を提出しました。

市民の皆様にも、我々回収業者の窮状をご理解いただき、ご支援を賜われますよう宜しくお願い致します。

集団回収委員長

小畑和夫

清瀬市自転車リサイクル作業所を見学して。

七月二三日、三七度と言う猛暑の中、清瀬市中里の自転車リサイクル作業所へ見学に行きました。

作業所はプレハブで、室内は四〇度以上あるのではという暑さの中、シルバー人材センターより派遣された三人が作業をしていて、その日は現場の石井さんからお話をお聞きしました。

作業は、月曜日と金曜日で五人が一日三人のローテーションで、回収された放置自転車のリサイクルをしています。

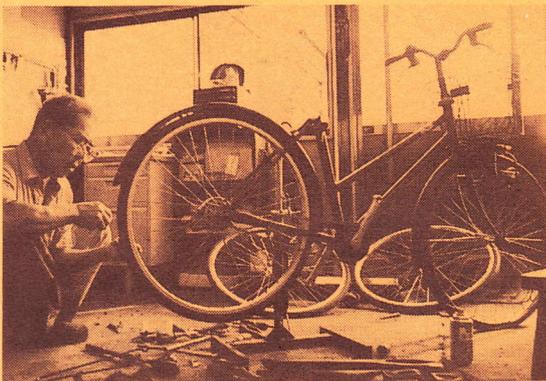
回収された自転車の約五〇％がリサイクル可能だとの事。ほとんどが、手作業なので、三人がかりで一日に二台から三台位だそうです。

作業を見ていると、まず、程度のいいフレームやホークを合わせ、そこに大量にストックしてあるサドルやハンドル、泥よけなど自転車の主要部品を付けて行き、オリジナルとはまったく別の一台を作り上げます。同色の部品などほとんど無いなかで、完成品はリサイクル品とは思えないりっぱな物で、作業員の方のセンスの良さに感心しました。価格もかなりリーズナブルで、自転車盗難登録料込み約

六、〇〇〇円で、清瀬市の自転車組合加盟店九件のお店で購入できます。安全性についても、ブレーキ、チェーンなど事故につながる部品については、作業員、自転車屋さんとの二重の点検を行っています。

売れ行きも上々で、昨年の市民祭では、二日間の初日で四〇台が完売し、二日目のお客さんに謝るのが大変だったそうです。

私も仕事柄色々なリサイクル施設を見学していますが、この自転車リサイクルは一見地味な事業に思えるけれど確実に一台、一台新しい命を吹き込み、全く別の自転車として世に送り出す大事な事業だと思いました。（土井健一郎）



色々な部品で、組み立て作業

市民の皆様の声を募集します！

日常生活の中のリサイクル、市民の皆様が取り組んでいるリサイクル活動、ゴミ問題についてなど何でも結構です。当組合へお手紙・FAX・Eメール等でどしどしお寄せ下さい。尚、お寄せ頂いた皆様の声は、当組合機関紙「ヴィーナス通信」に掲載させて頂く場合があります。

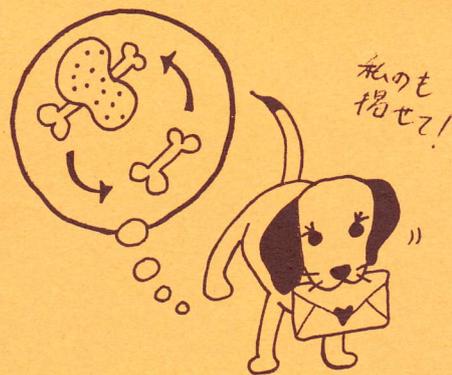
〔送り先〕

東村山市久米川町1-16-18

東多摩再資源化事業協同組合

TEL・FAX：042-395-9788

Eメール：ri3196@oak.ocn.ne.jp



(株) 富澤の彩京資源化

センターを見学して

(株) 富澤(東京都荒川区東日暮里五・四八・五、富澤一郎社長)の彩京資源化センター(川口市元郷三・二・三)を太田吉計所長の案内で見学した。同社は小学館、集英社など出版社からの仕入れが多く、残本(返本雑誌)の扱いでは大手問屋のひとつで、川口以外にも東京都板橋区、埼玉県八潮市、神奈川県厚木市の三ヶ所にヤードを持っている。

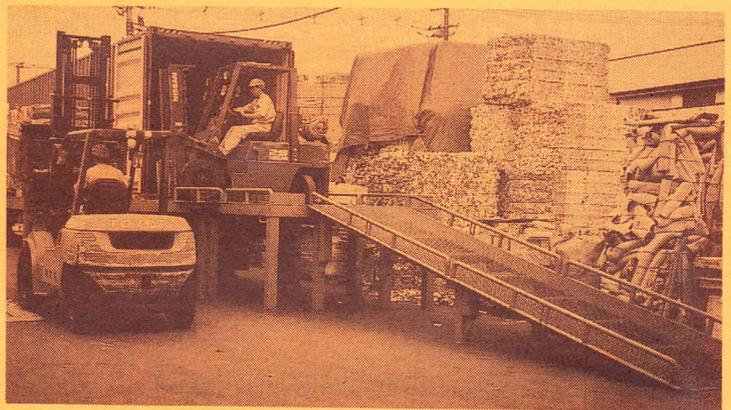
彩京資源化センターはラジオコマーシャルでおなじみの川口元郷パチンコ富士の近くにあり、敷地面積は約千坪で、第一倉庫(約三百坪)には川口紙工製二百五十馬力のペーラーが設置され、第二倉庫(約百十坪)には拓巳技研製古紙選別ライン(処理能力時間当り一・五トン×二トン)が設置されている。古紙の加工機材として、紙管巻き戻し機、紙管金具取り機(小木曾製)、背糊裁断機(コスモ機械製)、残紙ロール切断機(静神工機製)、一軸破碎機(プラコー製、処理能力時間当り約一・五トン)などがある。

彩京資源化センターの大きな特

徴として、二十四時間年中無休の営業が挙げられる。夜間は計量と荷下ろしだけで、金銭の支払いはしない。二十四時間営業は全国的にも少なく、昔から鋳物工業でよく知られている川口市の工業地域にヤードがある為可能となっている。

もうひとつの特徴であるオフィス古紙の選別ラインは、一時間当り一・五トン×二トンの古紙を処理する事が出来る。ベルトコンベアの途中に八箇所の分別ピットと最終ピットを持ち、九種類の分別を可能としている。オフィス古紙に混じっている、バインダー類、カーボン紙、ビニール類、スキ色上質類も各ピットごとに分別できるので排出元の事業所や集荷業者は分別の煩わしさから開放される。脊糊裁断機などの加工機材は出版社から持ち込まれる残本や印刷工場から持ち込まれてくる産業古紙を主に取り扱っている富澤の性格上必要不可欠の物で、その機材の充実ぶりには感心させられる。

一軸破碎機(大型シュレッダー)は、段ボールに入った古紙をその



輸出コンテナ積み込み用のスロープ

まま破碎できる機械で機密書類のシュレッダー処理に活躍する。

また輸出コンテナ積み込み用のスロープが設置されていて常時海外輸出が出来る体制が整っている。

見学中でも段ボールの積み込みが行われていたが、リサイクル熱の高まりや東京ルール1の実施により恒常的な余剰化が進んでいる新聞、段ボール、雑誌などの回収古紙はもちろん産業古紙の輸出もこれから増えて行くと思われる。

見学する前は二十四時間営業と言うので、産廃業者等からの段ボ



輸出コンテナへの段ボールの積み込み作業風景

ールの取扱量が多いのかと考えていたが、段ボールプレスの在庫はあまり多くは無く、第一倉庫の在庫のほとんどは上物古紙(込頁、色上、ケント)で占められていた。オフィス古紙は手を掛けずにミックスペーパーで販売すると言う古紙問屋が多い中で、製紙メーカーのニーズに応じた品質の原料古紙を安定的に供給すると言う、(株)富澤の経営方針を感じた。

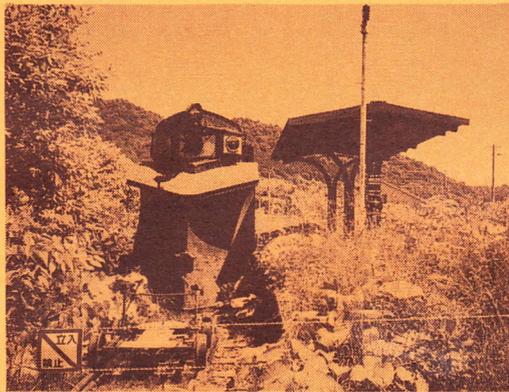
(奥山慎吾)

廃墟と廃棄物

『廃』の国から幸福へ

最近まで北海道にすんでいた私は、休みともなると趣味で廃線跡（廃止になった鉄道路線跡）や廃墟を探して走り回っていました。北海道は他の都府県と違い、明治以来鉄道の敷設とともに開拓をすすめていったため、国鉄民営化以前はかなり過疎の地域にまで鉄道網が張り巡らされていました。軍用鉄道、炭鉱鉄道、軽便鉄道などを含めれば相当数の路線が存在していたわけです。それが戦後炭鉱の閉山、過疎化、モータリゼーションの到来などで路線の廃止が相次ぎ、国鉄民営化の際にはメインの路線を残して殆どが廃線となっていました。これは昭和四九年のSLの廃止に引き続いて鉄道ファンにとつて悲しむべき事態であったはずですが、私はむしろ現存の路線によりも廃線跡のほうにすつかり魅せられてしまったのです。きつかけは夕張の炭住（炭鉱マンたちがすんでいた長屋）がダムの底に沈むという新聞記事でした。次の休みの日には朝イチで車を飛ばしました。

今やメロン、国際映画祭等有名な夕張も以前は石炭で賑わった炭鉱城下町でした。よって炭鉱鉄道の廃線跡なども各地に見られ、まるで私にとつては天国のようなところでした。夕張鉄道、三菱炭鉱鉄道、夕張森林鉄道、旧国鉄夕張線登川支線（すべて現在は廃止路線）など。並行する国道から鉄道橋の橋脚、入り口を塞がれたトンネル、草に埋もれた駅と放置されたままの列車、ダムに沈む予定の炭住跡や廃校跡など・・・



三菱炭鉱鉄道南大夕張駅

それらの殆どが使われなくなつた今、倒壊などの恐れのある箇所が立ち入り禁止もしくは撤去されている他はそのまま放置されていました。帯広に行く途中で何度か通つたはずの夕張にこれだけの廃墟が眠っていたかと改めて気づいたのです。



旧国鉄士幌線夕張ツ橋梁・幻のアーチ橋

これらの廃墟の中には世界的にも珍しい三角鋼を利用した鉄橋、鉄筋を入れずに作られた古代ローマの水管橋を思わせるようなコンクリートアーチ橋、夏の間はダム湖の底に沈み、冬湖面が凍結し水位が下がったときだけ現れるという幻のアーチ橋など貴重な建造物も数多くあり、最近ではこれらの廃墟を保存し、観光資源として利用していこうという市民運動が各地で盛んになりつつあります。但しこれらを維持管理するには莫大な資金がかかるものの、そこまでの集客が見込めるか（少なくとも今はマニアと一部の観光客にだけ受けている状態）と言う問題があります。

廃墟を観光資源にするという命題は廃棄物を如何に再資源化していくかと言うことと何か類似しているような気がします。どちらも市民が積極的に動いているところにも共感を覚えます。私は業界三ヶ月の若輩者で右も左もわかりませんが廃墟にも廃棄物にも幸福な未来が開けるように尽力したいと思います。

（紺野 琢生）



旧国鉄広尾線幸福駅／現帯広市交通公園

一方ではあの『愛の国から幸福へ』のキャッチフレーズで一躍有名になった旧国鉄広尾線幸福駅のように交通公園としてすっかり観光地になっているところもあります。いまだにあの切符は二二〇円で売られています。今は廃線になつていので乗ることは出来ませんが・・・

第八回通常総会開催

去る五月一九日(土)、組合事務所
所で当組合の第八回通常総会が開
催された。まず、当組合の紺野理
事長の挨拶の後、平成一二年度事
業報告・決算関係及び平成一三年

度事業計画案・予算案が承認され
た。続いて、当組合の定款変更
組合事務所移転について満場一致
で承認され、通常総会は無事終了
した。

組合研修会開かれる 古紙リサイクルシステムの危機を乗り切るために

去る六月二十九日(金)、組合の研
修会を開催した。

研修会では、講師に栗原紙材(株)
社長・栗原正雄氏(関東製紙原料
直納商工組合理事長)と紙パ資源
(株)社長・森田敏雄氏を招いて、現
在の古紙の流通事情について説明
していただいた。

栗原正雄氏は、「現在、国民一人
当りの紙の需要の伸びが低下して
いる反面、古紙の消費量は増加し、
利用率も拡大している。

しかしながら、古紙の回収量・
回収率が消費量・利用率を上回っ
て増加してきており、回収されて
きた古紙が、全て消費しきれずに
余剰する状態になっている。

このような古紙余剰化の解決策
として、我々古紙業界では古紙を
東南アジアなどの海外に輸出する
ことでしのいでいる。

そこで、このような海外市場を
余剰時においてだけでなく、通

常の需要先として開拓していくこ
とで、古紙の余剰化を防ぎ、古紙
リサイクル循環システムの円滑化
を図る必要がある。」(詳細は2
3頁の「直言拝聴」に掲載)と説
明された。

また、森田敏雄氏は「現在、紙・
板紙の年間国内生産量は、三〇〇
〇万トン(六割が紙、四割が板紙。
紙のうち五八%が古紙、残りがパ
ルプ)である。このうち、輸出入
の占める割合は全体の三〇五%に
すぎず、紙に関しては自給・自足
の状態にある。

しかしながら、国内で古紙の余
剰化が進む中で、古紙の輸出の動
きが目立っている。

一方、海外市場は、日本の古紙
について、インクが簡単にとれな
い・紙の繊維が短いので強度を高
める必要があるなどの技術面で不
満を抱えているものの、価格が安
い・納期が早い・品質が良い(不

純物がほとんど混ざっていない)
等と評価している。

日本としても、このような海外
市場の反応に答えるべく、古紙を
積極的に輸出して、現在の古紙余
剰化を解消し、古紙リサイクルの
循環システムのバランスを保つよ
うな体制を早急に整備する事が必
要である。」と説明された。

この研修会で、改めて現在の古
紙の流通事情の厳しさを痛感し、
我々古紙回収業界としても、いち
早く古紙リサイクルの循環システ
ムの円滑化をとり戻すために、な
お一層努力をしていかなければな
らないと感じた。

東京都資源回収事業協 同組合に、古紙輸出検討 特別委員会設置

七月二四日東資協本部において
第一回の会合が開かれた。

紺野理事長より佐藤委員長にた
いして、古紙海外輸出事業の検討
の諮問書が渡された。

事業の可能性・問題点・実行策
等を早急にまとめるという。

答申は九月末中間、一〇月末最
終答申を行う予定。

古紙回収業界としての本格的な
輸出事業が成り立つか注目されて
いる。

当組合のホームページをご利用下さい!

- 当組合の概要・事業内容やリサイクル情報について、
分かりやすく掲載しています。
- 当組合に関する事やリサイクルに関することのご意見
ご質問は掲示板やEメールにどんどんお寄せ下さい。
(ご意見・ご質問には当組合よりすみやかに回答させて
いただきます。)

ホームページアドレス：<http://www.h-recycle.or.jp/>

Eメール：ri3196@oak.ocn.ne.jp

皆様からのたくさんのアクセスをお待ちしています!



私の履歴書

(有)フジノ

代表取締役 藤野昭吾

私は、昭和一七年九月一四日に栃木県宇都宮市で生まれました。六歳頃に上京し、親子三人江東区亀戸のアパートに入居しました。三二年三月に中学校を卒業し、実社会に飛び出しました。

その頃の社会は、金の卵といわれた中学生でもなかなか良い所に入社出来なかった時代でした。

どうか小さな会社に住込みで働けるようになりましたが、今とは関係ない機械製造会社に就職しました。

その頃の物価は、コロッケ五円、コッペパン十円、納豆十円ぐらいの生活でした。当時は、会社の給料が四五〇〇〜五〇〇〇円が平均でした。私の入社した会社も住込みですから、手取り二〇〇〇円が最初にもらった給料だったことをよくおぼえています。

当時、父はリヤカーで古紙(新聞・雑誌)・鉄・非鉄(銅・真鍮)・ボロ等を集め、建場におろす仕事をしています。私が会社で働きながら車の免許を取った事を知った父が、車(トラック)を買ってやるから一緒に仕事をしようと誘

われ、この業界にはいりました。最初はおもしろ半分でしたが、だんだん仕事にやりがいを見つけ、真面目に取り組むようになりました。昭和三七年に都内から東村山に転居する際、引越し荷物を積んで初めての長距離?を走った時のこわさは、今では笑い話です。

東村山市に移って一年後、自分でも建場を持つに至りました。当時、私はこの仕事だんだん好きになり、面白くなってきました。その理由は、もうかる時ともうからない時がはっきりしているからでした。

品物がなければ相場が上がリ、多ければ下がるといふ自然の経済原理が働き、相場を動かしていた時代でした。

一時的に相場が高いときには、スチール缶だけでも一日四〜五千円になったこともありました。また、上物スクラップなどは一台分で十万円になったときもありました。当時は、サラリーマンの給料が三万円ぐらいの相場の時です。

それが現在はどうですか。スチール缶は、マイナス十〜マイナス五円の逆有償になり、想像もつかない相場となっています。昭和四五年の石油ショックの時は、この業界は大もうけとなりま

した。しかしそれは長く続かず、相場は、下がりになり、大不況となったのです。

その後、一進一退を繰り返しながら、現在にいたっております。

昭和四三年に結婚し、四五年に長男が、四八年に次男が誕生しました。長男は、東京消防庁に公務員として勤務し、平成十一年に結婚しました。次男が後を継いでくれて、現在一生懸命に頑張っております。大いに助かっています。古紙関係はかなり覚えてきましたが、非鉄関係はまだよくわからない様子です。もう少しで仕訳が出来るようになれるでしょう。これからが楽しみです。

平成九年九月に法人化し、有限会社フジノとなりました。従業員一同と共に安定した経営をしたいと思っております。

不況時に入ってから、当然相場は下がり、町からチリ紙交換が消えました。市町村のゴミは増える一方になり、最終処分場の持ち込みも増大しました。その為に各市町村は、中間処理をせざるをえなくなりました。資源化される古紙・ビン・スチール缶・アルミ缶等を業界に委託する時代になってきました。

そのような中において、新しい

組合を平成五年七月に設立しました。組合員一五名が参加し、六月から委託事業を任せられるようになりました。

組合の中では、私は副理事長を拝命していますが、理事長をはじめ各役員が一生懸命役目をまっとうしています。

私も負けずに組合活動に邁進していく所存です。

今後とも宜しく御指導の程お願い致します。



(有)フジノ・事務所にて

自動車リサイクル法の

骨子固まる。

「新車販売時に処理費用徴収」
産業構造審議会・環境部会は七月六日、廃車のリサイクルに関する報告書をまとめた。来年国会に法案を提出し二〇〇四年には施行の見込みと言う。

四月施行の家電リサイクル法も今国会で成立したフロン回収・破壊法も処理費用は、最終使用者が廃棄時に支払う「後取り方式」だ。

しかし、この方式は不法投棄増加の誘因として問題になっている。自動車リサイクル制度では、新車購入時に徴収する「先取り方式」に決まった。

処理費用は二万円程度の見通しで、解体処理後に出る破砕くずやフロン・エアバックの処分をメーカーに義務付けるもの。

自動車は年間約五百万台廃棄されるが、その費用が法律で裏付けられた一千億円の事業になると異業種業界も注目しているようだ。

また、七千五百万台の既販車や中古車の費用は、従来通り利用者が支払うとなれば、替え買い時には二台分の処理費の負担も考えられるなど問題も多い。

容器リサイクル法や家電リサイ

クル法、自動車リサイクル法も、今現在、そのリサイクルに携わっている業界の代表者が、法案作成時に全く参加させてもらえなかったのも納得出来ない。

(T・K)

行事・行動

【四月】

- 五日：日資連・リサイクル委
- 一日：定例理事会
- 一六日：東京R団連・幹事会
- 二一日：日資連・理事会
- 二三日：古紙センター・業務委
- 二四日：中央会・役員会
- 二五日：東京R団連・古紙部会

【五月】

- 九日：多摩R団連・幹事会
- 一日：定例理事会
- 二日：日資連総会
- 四日：J P 環境セミナー
- 七日：R 団連・常任幹事会
- 一九日：第8回通常総会
- 二一日：東京R 団連・幹事会
- 二三日：東久留米市廃棄物減量審
- 二六日：東資協・総会
- 二七日：日野市リサイクル協総会
- 二八日：古紙センター業務委

【六月】

- 一日：小平市廃棄物減量審議会
- 三日：小平市フリーマーケット

- 六日：東村山市廃棄物減量審
- 八日：輸出梱包組合で講演
- 一日：定例理事会
- 二日：古紙センター・理事会
- 一二日：段ボールR 協議会・総会
- 一七日：日資連・全国大会
- 十八日：東京R 団連・幹事会
- 一九日：小平RC 安全会議
- 二〇日：広報委員会
- 二二日：福利厚生委員会
- 二六日：排ガス規制講習会
- 二九日：中央会・役員会

- ：東久留米市廃棄物減量審
- ：組合員研修会

【七月】

- 一〇日：定例理事会
- 一日：古紙問題プロジェクト
- 一六日：東京R 団連・幹事会
- ：広報委員会
- 十八日：多摩R 団連・幹事会
- 二五日：東久留米市廃棄物減量審
- ：広報委員会
- 二七日：古紙センター業務委
- 二九日：組合員家族親睦会
- 三〇日：小平市廃棄物減量審議会

編集後記

栗原正雄様、今号にご寄稿下さいまして有難うございました。輸出事業が早く黒字に成ることを望みます。

最近まで付き合っていたガソリンスタンドがやめてしまいました。値段競争が激しすぎて小さな店舗では採算が合わないそうです。大資本が資金力を使つてせめて

来るため小さな店はどんどんなくなっています。資本主義の社会ですから仕方ないのでしょうか。古紙業界も他人事ではないとおもいます。

大商社が古紙ヤードを不景気にもかかわらずつくっています。出上がれば得意の営業力で末端の私たちの得意先をうばっていきま

す。資本主義社会で戦つて勝ち残るには、組合がとて重要になるとおもいます。

古紙輸出も小店舗ではいろいろな障害があつて思うようにできなかったのですが、東資協に古紙輸出委員会が出来たのでとても楽しみにしています。

我々の高品質の古紙がアジアマーケットにのることを祈ります

(吉浦高志)

